

田川内 1 号墳と八代の古墳

たのかわちいちごうふん

田川内 1 号墳は、八代市の南部に位置する径30m ほどの円墳(えんぷん)です。石室内の装飾が古くから注目されていました。出土資料の一部は肥後考古学会会長を務められ、九州の考古学会を牽引(けんいん)され平成16年に亡くなられた三島格(みしまいたる)氏により保管されていました。三島氏の「体制が整ったならば地元で保存を」との遺志に基づき、平成 26 年 3 月、関係者より当館に寄贈されました。これを記念して当館及び八代市教育委員会所蔵の八代市内の古墳出土資料とあわせてご紹介いたします。

1. 田川内 1 号墳(八代市日奈久新田町)

田川内1号墳は、八代市の南部に位置する径30m ほどの円墳です。丘陵の端の標高約8m の所にあり、近世の干拓以前の海岸線まで約200mという、大変海に近い場所にありました。

内部は横穴式石室で、石室内には石障(せきしょう)と呼ばれる板石が壁面や仕切り石として立てられています。石障には円文や同心円文の装飾が見られ、石室内には朱が一面に塗られています。石室の石材は天草産の砂岩(さがん)で、大甕蔵山古墳群など、島に築かれた古墳との深いつながりが見受けられます。

また、刀剣、甲(よろい)などの武器武具、斧、鉋(やりがんな)などの工具、という多種多様な鉄器、碧玉製勾玉(へきぎょくせいまがたま)やガラス小玉などの装飾品からは、古墳に葬られた人々の富と権力がうかがえます。また、真珠やイモガイ(奄美・沖縄以南で採れる大型巻貝)製の腕輪など海とのかかわりが注目されます。



玉類(先端は碧玉製勾玉)(左上)、
イモガイ製腕輪(右下)



田川内 1 号墳 石室内部



2. その他の古墳

① たかしまこふんぐん 高島古墳群(八代市高島町)



4世紀後半に築かれた古墳群で、高島町の高島山にあります。高島山は現在では陸続きとなっていますが、かつては八代海上に浮かぶ小島でした。ここに組合せ式の箱式石棺を主体とする4基の古墳があります。高島は、石灰岩でできた島であるにもかかわらず、石棺の石材には天草産と見られる砂岩や安山岩が使われています。同じように天草産の砂岩製の石棺を用いた古墳は、産島(うぶしま)古墳群・大鼠蔵山(おおそぞうやま)古墳群・小鼠蔵山(こそぞうやま)古墳群などでも見られます。高島古墳群から、古墳祭祀に使われたとみられる土師器が見つっています。

② おおそぞうやまこふんぐん 大鼠蔵山古墳群(八代市鼠蔵町)

八代市鼠蔵町の大鼠蔵山にあります。高島と同じく古墳時代には八代海に浮かぶ島で、近くの小鼠蔵古墳群とともに多数の古墳が造られています。

楠木山(くすのきやま)古墳は竪穴式石槨(たてあなしきせっかく)を持つ4世紀前半に築かれた古墳で、八代市内で最も古い古墳です。尾張宮(おわりのみや)古墳は横穴式石室を持つ5世紀の古墳で、装飾古墳としても有名です。周辺には、高島古墳と同様の箱式石棺が多数あり、南の海に産するサラサバティの腕輪が出土しました。

八代で最も古い古墳が、このような海中の島に、天草産の石材を用いて造られたこと、また、サラサバティの貝釦も出土したことは、古墳時代の八代の有力な集団が、貝交易に関わった海人達であったことをよく表しています。



装飾石棺材(上)彫刻された刀には鹿角製刀装具とみられる表現がある。銅鈴(右上)1. 6～2cm、

サラサバティ製の腕輪(右下)(5世紀)

大鼠蔵箱式石棺墓群出土



③^{ごたんだこふん}五反田古墳(八代市敷川内町五反田)

敷川内(しきかわち)町の山裾にある古墳です。現在では西側に平野が広がっていますが、これは近世以降の干拓によりできた平野で、古墳が造られた当時は海が広がっていました。

この地域は古くから宅地として利用されたため、墳丘は破壊されており、墳形や規模は不明です。築造されたのは5世紀中葉と考えられます。石障(せきしょう)とみられる石材に同心円文の装飾があります。また、須恵器や玉類、鏡が出土しています。近年、鏡は島根県松江市の苅捨古墳で発見された鏡と同じ鑄型で作られたものであることがわかりました。



振紋(ねじりもん)鏡(5世紀)

五反田古墳出土 個人蔵

③^{やしろうおつかこふん}八代大塚古墳(八代市上片町下野森)

八代大塚古墳は、球磨川によって形成された八代平野の球磨川右岸にある全長55.7mの前方後円墳です。周溝内や墳丘上からは、人物埴輪などの形象埴輪、円筒埴輪、須恵器が多数出土しています。

内部主体は不明ですが、出土した埴輪や須恵器などから6世紀前半に造られたと考えられています。

八代大塚古墳の周囲には、高取上ノ山(たかとりうへのやま)古墳、茶臼山(ちやうすやま)古墳など築造時期の前後する前方後円墳や大型の円墳があり、九州西岸部において、この時期最も南に位置する前方後円墳群として注目されます。

周辺には他にも前方後円墳といわれながら、築造時期のわからない古墳が多数あります。また火の君の墓といわれる氷川町の野津(のづ)古墳群との関係など、八代の古墳時代の鍵を握る重要な古墳です。



大塚古墳人物埴輪(右)
朝顔型円筒埴輪(中)
須恵器壺(左)(6世紀)
八代大塚古墳出土